



名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物

レッドデータブック なごや2015

植物編

名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物

レッドデータブックなごや 2015

植物編

2015年4月

名古屋市

【表紙写真】

表：オニバス（葉と閉鎖花）（維管束植物）

中区 2014年9月29日 （撮影 芹沢俊介（S89695））

裏：イチョウウキゴケ（配偶体）（コケ植物）

守山区 2013年6月18日 （撮影 成田 務）

・修正について

平成27年4月30日に「レッドデータブックなごや2015」を公表していますが、この冊子では字句等を一部修正しています。



発刊にあたって

名古屋市には、北西部の平野や、中央部の台地、東部の丘陵地など、それぞれの地域ごとに特色のある自然が残されており、そこには多様な野生生物が「互いにつながりあい」そして「バランスをとりながら」暮らしています。

しかし、長い間の人間の営みに伴う自然環境の変化などにより、以前は身近に見られた野生生物の中には、その数を減らし、絶滅のおそれが生じているものがあります。

昨年11月、名古屋で「持続可能な開発のための教育（E S D）に関するユネスコ世界会議」が開催されました。E S Dは、環境・経済・社会が調和した持続可能な社会を作るための「人づくり」を推進することを意味しています。

私たちは、環境・貧困・人権・平和・食料などさまざまな課題を抱えています。今生きている自分たちだけでなく、未来の子どもたちも安心して暮らせるまちの実現を目指し、この名古屋の豊かな自然環境や生きものを守り、次の世代に持続可能な形で引き継いでいくことは、私たちに課せられた責務でもあります。

名古屋市では、市内の野生生物の生息・生育状況について定期的に調査を行っています。平成16年(2004年)には、絶滅のおそれのある野生生物の分布状況や減少の要因などについてとりまとめた「レッドデータブックなごや2004」を発行し、平成22年(2010年)には補遺版を追加発行しました。そしてこのたび、最新の情報を反映させた改訂版として「レッドデータブックなごや2015」を作成しました。

本書を通してより多くの皆さまに名古屋に残された自然環境への理解を深めていただくとともに、多様な野生生物を守る身近な取組の輪を広げていくための一助となることを願っています。

本書の作成にあたり、ご協力、ご尽力いただきました名古屋市動植物実態調査検討会をはじめとする多くの関係者の皆さまに、厚くお礼申し上げます。

平成27年4月

名古屋市長 河村たかし

【 目 次 】

1. レッドデータブック作成の経緯及び目的	1
2. 調査の概要	3
(1) 調査体制	3
(2) 調査対象と調査方針	4
(3) 調査方法	5
(4) レッドリストのカテゴリーと判定基準	7
3. 名古屋市版レッドリスト	12
4. 名古屋市の野生生物の現状	21
維管束植物	21
① 名古屋市における維管束植物の概況	21
② 名古屋市における絶滅危惧種の概況	27
③ 名古屋市中特に保全上の重要性が高い維管束植物	29
④ レッドリスト掲載種の解説	32
凡例	32
絶滅 (E X)	34
絶滅危惧ⅠA類 (C R)	109
絶滅危惧ⅠB類 (E N)	158
絶滅危惧Ⅱ類 (V U)	216
準絶滅危惧 (N T)	288
国リスト・県リスト	326
コケ植物	337
① 名古屋市におけるコケ植物の概況	337
② 名古屋市における絶滅危惧種の概況	338
③ レッドリスト掲載種の解説	339
凡例	339
絶滅 (E X)	340
絶滅危惧Ⅱ類 (V U)	341
準絶滅危惧 (N T)	344
【 資 料 編 】	359
1. 名古屋市版レッドリストから削除された種	360
2. 県内分布の表示に用いた区画の略称と範囲	363
3. 維管束植物の評価手法の選定理由	363
4. 維管束植物でリスト外と判定された種	366
5. レッドデータブックなごや2015 植物編に関するQ & A	368
6. 文献一覧	373
7. 執筆者及び協力者	374

【 索 引 】	-----	375
索引（和名五十音順）	-----	376
（１）維管束植物	-----	376
（２）コケ植物	-----	380
索引（分類順）	-----	381
（１）維管束植物	-----	381
（２）コケ植物	-----	385

1. レッドデータブック作成の経緯及び目的

我が国は、昭和40年代に高度経済成長期を迎えて第2次産業が大きく発展し、人口は都市部に集中し、道路や鉄道の整備、住宅団地の建設等が盛んに行われるようになった。それとともに自然生態系が圧迫され、野生生物の生息・生育環境が改変されたり減少したりして、絶滅する種も生じるようになった。

このような現象に対応するため、国レベルで野生生物の絶滅のおそれのある種について調査が行われ、平成元年に(財)世界自然保護基金日本委員会と(財)日本自然保護協会が「我が国における保護上重要な植物種の現状」を、平成3年に環境庁(現環境省)が「日本の絶滅のおそれのある野生生物-脊椎動物編」及び「同-無脊椎動物編」を発行した。その後、平成6年に国際自然保護連合(IUCN)がより定量的な評価基準に基づく新たなカテゴリーを採択したことから、環境庁は平成12年以降、順次改訂版レッドデータブックを発行してきた。平成18、19年度には第3次レッドリストが、平成24年度には第4次レッドリストが公表されており、平成26年度からは順次レッドデータブックが出版されている。

国レベルでの情報の整備を受けて、各都道府県でも、その地域で絶滅が危惧される生物に関する情報の収集整理がなされ、地域版のレッドリストやレッドデータブックが作成されている。愛知県でも、第一次レッドリストの公表を経て、平成13年度にレッドデータブックがとりまとめられた。その後、第二次レッドリストの公表を経て、平成20年度には「レッドデータブックあいち2009植物編」及び「同動物編」が、平成26年度には「第三次レッドリスト レッドリストあいち2015」が公表されている。

名古屋市では、昭和54年から名古屋市環境影響評価指導要綱(平成11年から名古屋市環境影響評価条例に移行)を施行し、環境影響評価の手続きを円滑に進めるため、市内に生息・生育している動植物について調査を実施した。昭和55年に「名古屋市及び近隣に生息する動物に関する調査報告」と「名古屋市の植生自然度及び自然保護に関する調査報告」を、平成5年にその改訂版を作成している。

平成12年度からは、市内における動植物の生息・生育実態調査を実施し、平成14年11月に名古屋市版レッドリストを公表した。そして平成16年3月、名古屋市版レッドリストに掲載された種の分布の概要、生息地の環境、減少の要因などを個別に記述した「レッドデータブックなごや2004植物編」及び「同動物編」を発行した。

その後、全国的に野生生物の減少や生態系への影響が指摘されていること、野生生物の生息・生育環境に影響を及ぼす土地の改変などの様々な状況が変化していることなどから、平成20年度から生物調査を行い、平成22年3月に「名古屋市版レッドリスト2010」を公表、平成22年10月に「レッドデータブックなごや2010 -2004年版補遺-」を発行した。なお、このレッドリストから新たにカニ類や潮下帯の貝類が評価対象に追加された。

これらの見直しに続き、平成24～26年度の3ヶ年、専門家で構成する「名古屋市動植物実態調査検討会」を中心に、前回見直し後の生息・生育状況や生息・生育環境の変化等の最新の知見を収集し、検討を行うとともに、市民から意見を募集した。

そして平成27年3月に「名古屋市版レッドリスト2015」を公表し、この度「レッドデータブックなごや2015植物編」及び「同動物編」を公表するものである。なお、今回から新たにコケ

植物が評価対象に追加された。

レッドリスト・レッドデータブックへの掲載は、捕獲規制等の直接的な法的効果を伴うものではないが、絶滅のおそれのある野生生物に関する理解を深めていただく基礎資料であり、各種開発事業の環境影響評価などに活用されることによって、野生動植物への配慮が適切になされることを目的としたものである。

なお、全国版レッドデータブック掲載種の中で特に保護の優先度が高い生物種は、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」に基づく国内希少野生動植物種に指定され、保護が図られている。また、愛知県内に生息・生育する絶滅のおそれのある種で、特に保護を図る必要がある動植物は「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」に基づき、指定希少野生動植物種に指定されている。その他、国、あるいは各地方で文化財として重要な動植物は、「文化財保護法」等に基づく天然記念物に指定され、保護が図られている。

2. 調査の概要

(1) 調査体制

調査の実施に当たっては、平成24年度から野生動植物に関する専門の学識者を中心とした「名古屋市動植物実態調査検討会」において、調査対象動植物についての調査内容、評価等について検討を行った。

委員は担当分類群について協力者と連絡をとりながら情報を収集するとともに、検討会において調査・作業状況を報告し、意見交換を行った。

表1 名古屋市動植物実態調査検討会 委員名簿

担当分類群	委 員
維管束植物	せりざわ しゅんすけ 芹沢 俊介 (愛知教育大学名誉教授)
	とりい ちえこ 鳥居 ちゑ子 (愛知植物の会会員)
コケ植物	なりた つとむ 成田 務 (新城市鳳来寺山自然科学博物館学術委員)
哺乳類	のろ たつや 野呂 達哉 (名古屋市環境局生物多様性専門員 金城学院大学非常勤講師)
鳥 類	おがさわら あきお 小笠原 昭夫 (名古屋学芸大学短期大学部非常勤講師)
は虫類	やべ たかし 矢部 隆 (名古屋市環境局生物多様性推進参与 愛知学泉大学現代マネジメント学部教授)
両生類	ふじたに たけし 藤谷 武史 (名古屋市緑政土木局東山動物園業務技師)
魚 類	たにぐち ましのり 谷口 義則 (名城大学理工学部環境創造学科准教授)
昆虫類	たなか たきひこ 田中 多喜彦 (名古屋市高年大学鯉城学園講師)
クモ類	すが ひでふみ 須賀 瑛文 (日本蜘蛛学会会員)
カニ類	あまの いさお 天野 勲 (日本甲殻類学会会員)
貝 類	かわせ もとひろ 川瀬 基弘 (愛知みずほ大学人間科学部講師)

(2) 調査対象と調査方針

今回の名古屋市のレッドデータブックでは、植物関係の調査対象分類群は、維管束植物（種子植物、シダ植物）およびコケ植物（蘚類、苔類）とした。それ以外の植物群については、名古屋市内のフロラ調査がまだ十分に行われておらず、一部特定種の状況は判明していても現況が全体としてははっきり把握できないため、やむを得ず調査対象から除外した。調査は、平成 24 年度から 26 年度にかけて実施した。

維管束植物については、種（亜種、変種を含み、品種、雑種を除く。ただし基準品種が名古屋市に生育していない植物については、品種レベルの名称でリストに掲載）を単位とし、名古屋市内に確実に生育している（いた）と判断された約 1,500 種のうち、明らかに絶滅危惧種でない普通種を除く約 390 種を調査対象とした。名古屋市本来の生物多様性を保全するという観点から、何らかの人為によって名古屋市域外から移入されたと判断される種（環境省の外来種、愛知県の移入種に相当する）は原則として対象外としたが、ニッケイ、シラン、ヤチヤナギなどは国および愛知県のレッドリストに掲載されているため調査対象に加え、ハマダイコンなどいくつかの古い帰化植物も調査対象とした。

調査範囲は、名古屋市全域とした。ただし河川が行政界になっている場合は、現在の流路の中心線をもって行政界とみなした。海域は陸地から観察できる範囲を調査したが、結果的に海産種子植物が全く確認できなかったため、実質的には対象地域外となった。

コケ植物については、名古屋市内に生育する全種を調査対象とした。

作成方針を検討する過程では、特に名古屋市では希少だが、周辺地域では普通に見られる種の扱いが問題となった。しかし、名古屋市のような都市化が進んだ地域では、国あるいは県レベルでは保全対象とならないような動植物についても、地域自然環境保全の観点から重要な意味を持つ場合があると考えられる。そのような、地域特性を踏まえたローカルレベルでの情報整備が名古屋市が独自にレッドデータブックを作成する目的でもあることから、周辺地域での存在状況は再侵入確率（名古屋市で一度絶滅しても、周辺地域にたくさんある種は再度分布を拡大してくる可能性が高い）という観点からは考慮されても、それ以上は考慮しないという方針で作業を進めることとした。またこのことに関連して、保全上の重要性を評価に反映させるか否かも問題となった。絶滅が危惧される生物は、一般的に言えば全て保護の必要があるが、その程度は必ずしも絶滅が危惧される程度に比例するものではない。レッドデータブックは、本来は絶滅が危惧される生物種についての情報集以上のものではないが、現実には環境保全上の一つの基準として使われる可能性も考えられ、その意味で保全上の重要性を反映したリストができれば好都合という側面もある。しかし、一方で保全上の重要性はどのような観点から評価するかによって異なり、更には植物とは直接関係しない価値観の影響も受ける。そのため今回のレッドデータブックでは、この点は考慮せず、名古屋市内で絶滅が危惧される程度だけに基づいて評価を行うこととした。名古屋市での絶滅が、日本全体、あるいは愛知県全体における生物多様性の減少に直結し、その意味で代替性が少なく特に保全の重要性が高いと考えられる種については、各種の解説の中などで必要に応じ説明を加えることとした。

調査結果は、平成 26 年 4 月に仮集計してレッドリスト（案）として公表し、市民から意見を募集した。そして、その意見も参考にしながら更に調査・検討を重ねた。

（執筆者 芹沢俊介）

(3) 調査方法

① 維管束植物（種子植物・シダ植物）

維管束植物の現地調査は、平成 24 年度から 26 年度にかけて、愛知みどりの会が担当して行った。

愛知みどりの会では、1992 年から蓄積している全維管束植物の調査資料を基に、市内 16 区を単位として追加野外調査や現状確認調査を行い、現状および過去の状況を把握した。また、平成 26 年 4 月にはそれまでの調査結果をまとめて、絶滅・野生絶滅 77 種、絶滅危惧 I A 類 47 種、絶滅危惧 I B 類 56 種、絶滅危惧 II 類 80 種、準絶滅危惧 36 種を公表した。そして、このレッドリスト（案）に対して寄せられた意見も参考にしながら追加調査を行った。結果的に、名古屋市の植物に関するデータベースは約 7,800 件に達し、その中に 5 件以上の情報が登録された標本採集者（このレッドデータブック作成に協力の意志があったとは限らない）は、巻末資料に示す 46 名となった。

以下の各区については、調査情報のとりまとめや調査者間の連絡調整は、鳥居および渡邊が担当した。

西区、北区、中区、東区、守山区、千種区、名東区：鳥居ちよ子

昭和区、瑞穂区、南区、天白区、緑区：渡邊幸子

使用した調査情報は、後日必要に応じ再検討ができるよう、近接した場所ですでに採集されているなどの理由であえて標本を作成しなかった一部の例外を除き、裏付けとなる標本が公開されている標本室（ほとんどは愛知みどりの会 AICH）に収蔵されているものに限定した。ただし、過去に名古屋市内で記録されている、あるいは生育していたという情報があるが、標本が確認できず、現存も確認できない一部の種については、今まで愛知県では自然史資料の集積体制が十分でなかったことを考慮し、確実と判断されるものに限定してリストに掲載した。裏付けの標本なしに掲載した種については、その根拠を各種の解説に記述した。

今回の調査ではできる限り名古屋市における維管束植物の現状を把握することに努めたが、調査者の人数が限られており、高齢化も進んでいる上に、新たに調査に参加してくれる人も少なく、さらに名古屋市は植物の生育密度が低い地域であるため、市内全域を十分調査するには至らなかった。特に小規模な残存緑地については、全部を調査することができなかった。また、過去に記録がある場所についても現況を全て再確認することはできなかった。そのため、本当は名古屋市に生育していて絶滅が危惧されるが、本書に収録されていない植物もあると思われる。実際、「ある／あった」という情報があり、確かに名古屋市に生育していても不思議ではないが、確認ができず、今回のリストでは掲載を見送った種も少なくない。以下に、その主要なものを例示する。

タコノアシ 庄内川下流部に生育しているという話を聞いたが、確認できなかった。

ハグロソウ 「緑区の社叢に生育」（中部植生研究グループ 1992）と報告されている。

フジバカマ 「庄内川畔（守山区）のヤナギ群落河川敷下にわずかに生育」（中部植生研究グループ 1992）と報告されている。

ビロードテンツキ 「海岸埋立地に生育」（中部植生研究グループ 1992）と報告されている。

このような種については、今後も注意して情報の収集に努めることにしたい。また、現存が確認

できなくともある程度再発見の可能性がありそうな種は、原則として「絶滅」と判定しなかったが、その一部は実際にはすでに絶滅している可能性がある。これらの種についてもできるだけ情報の収集に努め、次回の改訂の際にはより完全なリストを作成したいと考えている。

執筆は、水草（一部の絶滅種を除く）を中村、その他を芹沢が担当した。

（執筆者 芹沢俊介）

② コケ植物

調査対象種について、平成 24 年度から 26 年度にかけて文献調査と現地調査により生育状況の把握を行った。

- ・文献調査

既存文献を収集し、生育場所、確認時期等を調査した。

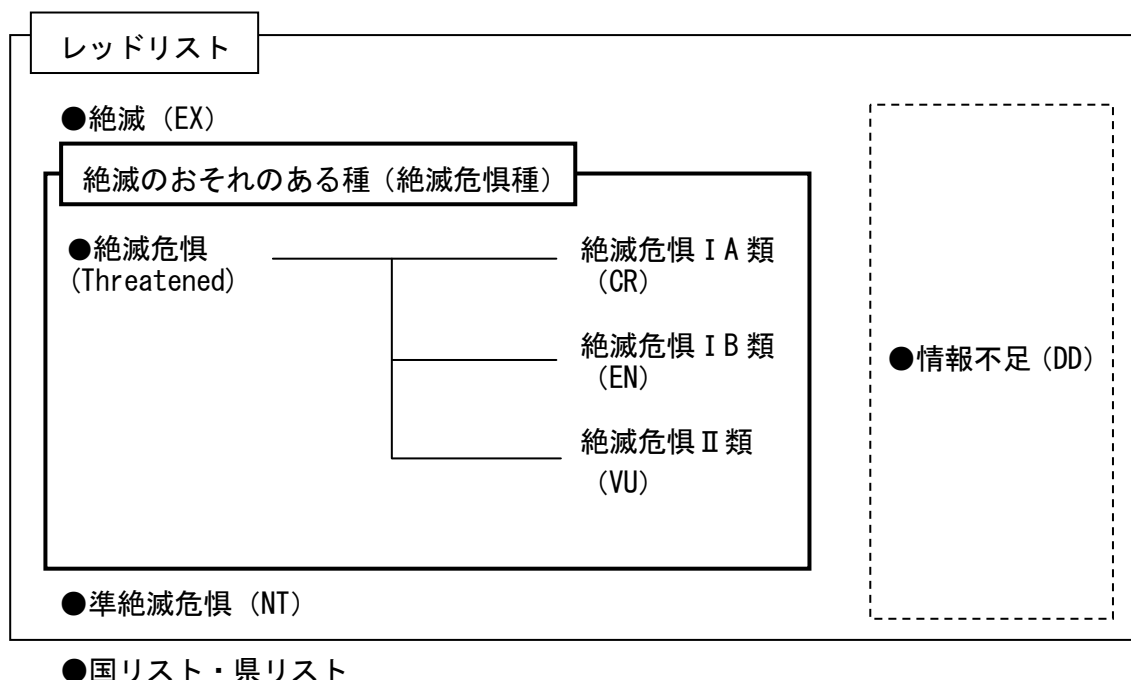
- ・現地調査

現地踏査を行い、生育状況を調査するとともに、必要に応じて文献調査で把握した既知産地の現状についても調査した。

（執筆者 成田 務）

(4) レッドリストのカテゴリーと判定基準

今回のレッドリストの見直しに用いたカテゴリーは次のとおりである。



判定基準は、国および愛知県のレッドリスト／レッドデータブックとの整合性を確保するため、原則として IUCN 基準に準拠することとした。ただし具体的な評価作業は、蓄積されている情報量が生物群ごとに異なることから、維管束植物とコケ植物でやや異なる手法で行った。

① 維管束植物（種子植物・シダ植物）

絶滅が危惧される程度を評価するためには、前提条件として、その種が名古屋市域に定着して生育していなければならない。そこで評価作業に際しては、まず対象種が名古屋市に定着している／いたかどうかについて検討した。イブキシダ、イワヘゴ、キヨスミヒメワラビのような、名古屋市では1株しか確認されていないシダ植物、ラセンソウ、タカアザミのような、やや不安定な場所に生育し、しかもその場所で継続的に生育が確認できない植物、カエデドコロのような散発的に出現し、しかもほとんど開花が確認できない植物など、偶産と判断される種は評価の対象から除外した。

また、移入の可能性が高く、国や愛知県のレッドリスト／レッドデータブックにも掲載されていないラセイタソウ、オオシマカンスゲ、海浜植物としてある程度定着しているが、本来は帰化植物であるハマダイコンについては、評価対象から除外した。しかし、ツメレンゲ、コガクウツギ、アズマガヤなどは、移入・逸出の可能性を否定しきれないものの自生とも考えられることから、評価対象に含めることにした。またオグラノフサモは、名古屋市に生育するものは雑種性植物の可能性はあるが、十分な確証が得られていないことから、評価対象に含めた。

レッドリストのカテゴリーについては、国および愛知県に準拠し、表2を用いた。ただし野生絶滅は、名古屋市では公的な系統保存の体制が整備されておらず、個人的に管理されているもの

を全て確認することもできなかったため、愛知県と同様、絶滅から区別しないことにした。情報不足は設定せず、情報が少ない種も現在得られる範囲の情報に基づき評価を行うこととした。

表 2 維管束植物に用いたカテゴリー（ランク）と判定基準

カテゴリー及び基本概念		国際基準の概略	名古屋市での基準
絶滅 Extinct (EX) ・ 野生絶滅 Extinct in the Wild (EW)	地域内ではすでに絶滅したと考えられる種。 野生では絶滅し、栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種。	過去に生育していたことが確認されており、少なくとも野生ではすでに絶滅したと考えられる種（栽培下等では存続している種を含む）。 【確実な情報があるもの】 1 調査や記録により、すでに野生で絶滅したと判断される。 【情報量が少ないもの】 2 過去 50 年間前後の間に、信頼できる生育の情報が得られていない。	市内において本来の自然の生育地ではすでに絶滅したと考えられる種
絶滅危惧 I A 類 Critically Endangered (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種。	次のいずれかに該当する種。 1 10 年間または 3 世代の減少率が、80%以上のもの。 2 生育地の面積が、10km ² 未満のもの。 3 減少率が 25%以上で個体数が 250 未満のもの。 4 成熟個体数が、50 未満のもの。 5 絶滅確率が、10 年間または 3 世代で 50%以上のもの。	表 3 の評価点の合計が 16 以上
絶滅危惧 I B 類 Endangered (EN)	I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種。	次のいずれかに該当する種。 1 10 年間または 3 世代の減少率が、50%以上のもの。 2 生育地の面積が、500km ² 未満のもの。 3 減少率が 20%以上で個体数が 2,500 未満のもの。 4 成熟個体数が、250 未満のもの。 5 絶滅確率が、20 年間または 5 世代で 20%以上のもの。	表 3 の評価点の合計が 14～15
絶滅危惧 II 類 Vulnerable (VU)	絶滅の危険が増大している種。 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。	次のいずれかに該当する種 1 10 年間または 3 世代の減少率が、20%以上のもの。 2 生育地の面積が、2,000km ² 未満のもの。 3 減少率が 10%以上で個体数が 10,000 未満のもの。 4 成熟個体数が、1,000 未満のもの。 5 絶滅確率が、100 年間で 10%以上のもの。	表 3 の評価点の合計が 12～13
準絶滅危惧 Near Threatened (NT)	存続基盤が脆弱な種。 現時点での絶滅危険度は小さいが、生育条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの。	—	表 3 の評価点の合計が 11
参考	国リスト	環境省レッドデータブック（2014）に掲載されているが、名古屋市において上記の要件に該当しない種。	表 3 の評価点の合計が 10 以下または外来種
	県リスト	愛知県レッドリスト（2015）に掲載されているが、名古屋市において上記の要件に該当しない種。	

各カテゴリーの判定基準のうち「絶滅」は、過去に名古屋市に生育しており、しかも最近 25 年の間に現存が確認されていない種とした。ただし、開発等により生育環境が破壊されて絶滅が確実視される種は、最後に確認された時が過去 25 年以内であっても、「絶滅」と判定した。

現在存在している種の絶滅が危惧される程度を判定する基準としては、個体数、集団数、生育環境の減少傾向、人為的圧力の程度、県内分布の 5 項目をそれぞれ表 3 に示す基準により 4 段階で評価し、更に地域固有性に関する補正を加えて、その合計点をもとに判定することにした。

表 3 維管束植物に用いた各評価項目の評価基準

評価項目 \ 評価点	4	3	2	1
個体数	1～2	10 未満	100 未満	100 以上
集団数	1	2～3	4～5	6 以上
生育環境の減少傾向	著しく減少 ・自然湿地 ・里草地 ・やせ山・砂浜 ・塩湿地・湿田 ・貧栄養水域 ・平野部の非汚染水域 など	やや減少 ・自然林 ・非造成丘陵地 （二次林、造林地を含む） ・岩場 ・堤防の草地 ・水田 など	増減なし ・中間的環境	増加 ・攪乱地 ・過栄養水域など
人為的圧力の程度	極めて強い ・極度に強い開発圧または採取圧がある ・開発圧も採取圧もあり、少なくともどちらかが強い	強い ・強い開発圧または強い採取圧がある ・開発圧も採取圧もある	あり ・開発圧（伐採を含む）または採取圧（可能性を含む）がある	なし
県内分布	名古屋市以外の確認区画数 0～2	3～5	6～10	11 以上
補正項目	・固有種・著しい隔離分布：+2 ・準固有種・全国的に少なく愛知県が分布の限界：+1			

各評価項目のうち集団数は、およそ 1km²（三次メッシュ相当）を 1 ヶ所として数えた。狭い範囲にいくつかの小集団がある場合は、まとめて 1 集団と見なした。個体数は、草本および小型木本では繁殖可能な個体の数、大型木本では背丈程度の幼木も含むものとした。ただし栄養的に繁殖する傾向が強い植物や小型の 1 年生草本などで個体数の年変動が著しい植物については、存続の基盤が脆弱であることを考慮し、実数より 1 桁ないし 2 桁少なく見積もることとした。定性的な評価になる生育値の減少傾向と人為的圧力の程度については、表 3 の具体例をもとに複数の調査者で評価を行い、不一致が見られた場合は協議して調整した。県内分布については、名古屋市を除く愛知県内を 55 区画に分けて、分布区画数を数えた。各区画の略称と範囲は、巻末資料 2 に示した。また、狭い範囲で絶滅リスクを評価すると地域固有性の高い植物の評価が相対的に低くなるので、これを補正するため、固有度補正項（固有種・著しい隔離分布種に+2、準固有種・全国的に希少で分布域の限界になる種に+1）を加えた。その他特殊事情がある種についても、補

正項を加えた。補正を行った種については、その補正值を各種の解説に示した。合計点とカテゴリーの対応は、愛知県にあわせ、原則として表2右端の基準により行った。このような手法を用いた根拠は、巻末資料に示した。一部の現存が確認できないが再発見の可能性がある種については、その種の生態的特性等をもとに、定性的な評価を行った。

② コケ植物

コケ植物については、表4に示す判定基準に従い、各調査対象種について収集された情報をもとに、名古屋市内の分布の状況等を勘案して総合的に判断・評価を行い、定性的要件に従い絶滅のおそれの程度を判定した。

「過去に確実に生育していた種」と判断する要件については、「標本等の確実な生育記録がある種」とした。なお、カテゴリーのうち野生絶滅は、原産地や遺伝的混乱の防止体制に疑問があると思われる場合もあり、また、個人的に管理されているものすべて確認することも困難であると判断されたので、絶滅とあわせ、絶滅・野生絶滅として扱うこととした（ただし、表記上は絶滅（EX）とした）。

表4 コケ植物に用いたカテゴリー（ランク）と判定基準

カテゴリー及び基本概念		定性的要件		
絶滅 Extinct (EX) ・ 野生絶滅 Extinct in the Wild (EW)	名古屋市ではすでに絶滅したと考えられる種。野生では絶滅し、栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種。	過去に名古屋市に生育していたことが確認されており、名古屋市において少なくとも本来の自然の生育地ではすでに絶滅したと考えられる種（栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態では存続している種を含む）。 【確実な情報があるもの】 1 信頼できる調査や記録により、すでに野生で絶滅したことが確認されている。 2 信頼できる複数の調査によっても、生育が確認できなかった。 【情報量が少ないもの】 3 過去50年間前後の間に、信頼できる生育の情報が得られていない。		
絶滅危惧Ⅰ類 Critically Endangered + Endangered (CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種。 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。	次のいずれかに該当する種。 【確実な情報があるもの】 1 既知のすべての個体群で、危機的水準にまで減少している。 2 既知のすべての生育地で、生育条件が著しく悪化している。 3 既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る採取圧にさらされている。 4 ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種が侵入している。 【情報量が少ないもの】 5それほど遠くない過去（30年～50年）の生育記録以後確認情報がなく、その後信頼すべき調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難なもの。	絶滅危惧ⅠA類 (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
			絶滅危惧ⅠB類 (EN)	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。
絶滅危惧Ⅱ類 Vulnerable (VU)	絶滅の危険が増大している種。 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの。	次のいずれかに該当する種 【確実な情報があるもの】 1 大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。 2 大部分の生育地で生育条件が明らかに悪化しつつある。 3 大部分の個体群がその再生産能力を上回る採取圧にさらされている。 4 分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している。		
準絶滅危惧 Near Threatened (NT)	存続基盤が脆弱な種。 現時点での絶滅危険度は小さいが、生育条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの。	次に該当する種。 生育状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。具体的には、分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。 1 個体数が減少している。 2 生育条件が悪化している。 3 過度の採取圧による圧迫を受けている。 4 交雑可能な別種が侵入している。		
情報不足 Data Deficient (DD)	評価するだけの情報が不足している種。	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性（具体的には、次のいずれかの要素）を有しているが、生育状況をはじめとして、カテゴリーを判定するに足る情報が得られていない種。あるいは確認例が極めて少なく、希少であるか否かも不明な種。 1 どの生育地においても生育密度が低く希少である。 2 生育地が局限されている。 3 生物地理上、孤立した分布特性を有する（分布域がごく限られた固有種等）。 4 生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている。		
参考	国リスト	環境省レッドデータブック（2014）に掲載されているが、名古屋市において上記の要件に該当しない種。	—	
	県リスト	愛知県レッドリスト（2015）に掲載されているが、名古屋市において上記の要件に該当しない種。	—	

3. 名古屋市版レッドリスト

名古屋市版レッドリストに掲載した種数は、表 5 のとおりである。

表 5 名古屋市版レッドリスト掲載種数 (植物)

カテゴリー 対象	絶滅 (EX)	絶滅のおそれのある種				準絶滅 危惧 (NT)	情報 不足 (DD)	計	参考
		絶滅 危惧 I A 類 (CR)	絶滅 危惧 I B 類 (EN)	絶滅 危惧 II 類 (VU)	小計				国リス ト・県 リスト
維管束植物	75	49	58	72	179	38		292	11
コケ植物	1	0	0	3	3	15	0	19	0
計	76	49	58	75	182	53	0	311	11

① 名古屋市版レッドリスト（維管束植物）

科の範囲、名称、配列は、一部を除き「日本産維管束植物目録」（米倉浩二著，2012年，北隆館）に準拠した。種の学名は主として「日本の野生植物」（1981～1992年，平凡社）に使用されているものを用い、科内の配列は学名のアルファベット順とした。

絶滅（EX）

No.	種名	科名	学名	国2014	県2015	市2010
1	デンジソウ	デンジソウ	<i>Marsilea quadrifolia</i> L.	VU	CR	EX
2	サンショウモ	サンショウモ	<i>Salvinia natans</i> (L.) All.	VU	CR	EX
3	ヒメコウホネ	スイレン	<i>Nuphar subintegerrima</i> (Casp.) Makino	VU	EN	EX
4	ヒツジグサ	スイレン	<i>Nymphaea tetragona</i> Georgi			EX
5	クロモジ	クスノキ	<i>Lindera umbellata</i> Thunb.			EX
6	マルミスブタ	トチカガミ	<i>Blyxa aubertii</i> Rich.	VU	EN	EX
7	スブタ	トチカガミ	<i>Blyxa echinosperma</i> (C.B.Clarke) Hook.f.	VU	EN	EX
8	ヤナギスブタ	トチカガミ	<i>Blyxa japonica</i> (Miq.) Maxim.			EX
9	トチカガミ	トチカガミ	<i>Hydrocharis dubia</i> (Blume) Backer	NT	EN	EX
10	ホッスモ	トチカガミ	<i>Najas graminea</i> Delile			EX
11	コウガイモ	トチカガミ	<i>Vallisneria denseserrulata</i> (Makino) Makino		VU	EX
12	サワラン	ラン	<i>Eleorchis japonica</i> (A.Gray) F.Maek.		CR	EX
13	ツチアケビ	ラン	<i>Galeola septentrionalis</i> Rchb.f.			EX
14	ミズトンボ	ラン	<i>Habenaria sagittifera</i> Rchb.f.	VU	VU	EX
15	トキソウ	ラン	<i>Pogonia japonica</i> Rchb.f.	NT	EN	EX
16	ヤマトキソウ	ラン	<i>Pogonia minor</i> (Makino) Makino		VU	EX
17	クモラン	ラン	<i>Taeniophyllum glandulosum</i> Blume			EX
18	オオバギボウシ	キジカクシ	<i>Hosta montana</i> F.Maek.			EX
19	ナルコユリ	キジカクシ	<i>Polygonatum falcatum</i> A.Gray			EX
20	ミズアオイ	ミズアオイ	<i>Monochoria korsakowii</i> Regel et Maack	NT	CR	EX
21	オオホシクサ	ホシクサ	<i>Eriocaulon buergerianum</i> Körn.		CR	EX
22	クロホシクサ	ホシクサ	<i>Eriocaulon parvum</i> Körn.	VU	EN	CR
23	ヌカボシソウ	イグサ	<i>Luzula plumosa</i> E.Mey. var. <i>macrocarpa</i> (Buchenau) Ohwi			EX
24	イトハナビテンツキ	カヤツリグサ	<i>Bulbostylis densa</i> (Wall.) Hand.-Mazz.			EX
25	ミクリガヤ	カヤツリグサ	<i>Rhynchospora malasica</i> C.B.Clarke	EN	CR	EX
26	シズイ	カヤツリグサ	<i>Schoenoplectus nipponicus</i> (Makino) Soják		VU	EX
27	ノグサ	カヤツリグサ	<i>Schoenus apogon</i> Roem. et Schult.		EN	EX
28	カガシラ	カヤツリグサ	<i>Scleria caricina</i> (R.Br.) Benth.	VU	CR	EX
29	ミカワシンジュガヤ	カヤツリグサ	<i>Scleria mikawana</i> Makino	VU	VU	EN
30	コシンジュガヤ	カヤツリグサ	<i>Scleria parvula</i> Steud.			EX
31	ヒナザサ	イネ	<i>Coelachne japonica</i> Hack.	NT	VU	EX
32	コゴメカゼクサ	イネ	<i>Eragrostis japonica</i> (Thunb.) Trin.		VU	EX
33	コメガヤ	イネ	<i>Melica nutans</i> L.			EX
34	オオアブラススキ	イネ	<i>Spodiopogon sibiricus</i> Trin.			EX
35	クサボタン	キンボウゲ	<i>Clematis stans</i> Sieb. et Zucc.		VU	EX
36	オキナグサ	キンボウゲ	<i>Pulsatilla cernua</i> (Thunb.) Bercht. et C.Presl	VU	CR	EX
37	オトコゼリ	キンボウゲ	<i>Ranunculus tachiroei</i> Franch. et Sav.			EX
38	チダケサシ	ユキノシタ	<i>Astilbe microphylla</i> Knoll			EX
39	キジムシロ	バラ	<i>Potentilla fragarioides</i> L. var. <i>major</i> Maxim.			EX
40	ミヤマワレモコウ	バラ	<i>Sanguisorba longifolia</i> Bertol.		EN	EX
41	シモツケ	バラ	<i>Spiraea japonica</i> L.f.			CR
42	アリマグミ	グミ	<i>Elaeagnus murakamiana</i> Makino		VU	EX
43	クロウメモドキ	クロウメモドキ	<i>Rhamnus japonica</i> Maxim. var. <i>decipiens</i> Maxim.			EX
44	タカトウダイ	トウダイグサ	<i>Euphorbia pekinensis</i> Rupr.			EX
45	ミズスギナ	ミソハギ	<i>Rotala hippuris</i> Makino	CR	EX	EX
46	ハマボウ	アオイ	<i>Hibiscus hamabo</i> Sieb. et Zucc.		VU	EX
47	コガンピ	ジンチョウゲ	<i>Diplomorpha ganpi</i> (Sieb. et Zucc.) Nakai			EX
48	コミゾソバ	タデ	<i>Persicaria mikawana</i> Hanai et Seriz.		NT	EX
49	タニソバ	タデ	<i>Persicaria nepalensis</i> (Meisn.) H.Gross			EX
50	ナガバノイシモチソウ	モウセンゴケ	<i>Drosera indica</i> L.	VU	CR	EX
51	ハマアカザ	ヒユ	<i>Atriplex subcordata</i> Kitag.		VU	EX
52	ギンリョウソウ	ツツジ	<i>Monotropastrum humile</i> (D.Don) H.Hara			EX
53	レンゲツツジ	ツツジ	<i>Rhododendron japonicum</i> (A.Gray) Suringar			EX
54	ヤマムグラ	アカネ	<i>Galium pogonanthum</i> Franch. et Sav.			EX
55	クサナギオゴケ	キョウチクトウ	<i>Cynanchum katoi</i> Ohwi	VU	NT	EX
56	コカモメヅル	キョウチクトウ	<i>Tylophora floribunda</i> Miq.			EX
57	ホタルカズラ	ムラサキ	<i>Lithospermum zollingeri</i> A.DC.		EN	EX
58	オオヒナノウスツボ	ゴマノハグサ	<i>Scrophularia kakudensis</i> Franch.			EX

59	ケブカツルカコソウ	シソ	<i>Ajuga shikotanensis</i> Miyabe et Tatew. form. <i>hirsuta</i> (Honda) Murata		EN	EX
60	ミズネコノオ	シソ	<i>Eusteralis stellata</i> (Lour.) Murata	NT	EN	
61	ミズトラノオ	シソ	<i>Eusteralis yatabeana</i> (Makino) Murata	VU	VU	EX
62	ノタヌキモ	タヌキモ	<i>Utricularia aurea</i> Lour.	VU	VU	EX
63	フサタヌキモ	タヌキモ	<i>Utricularia dimorphantha</i> Makino	EN	EX	EX
64	ミカワタヌキモ	タヌキモ	<i>Utricularia exoleta</i> R.Br.	VU	EN	EX
65	コタヌキモ	タヌキモ	<i>Utricularia intermedia</i> Heyne		CR	EX
66	ヒメミミカキグサ	タヌキモ	<i>Utricularia minutissima</i> Vahl	EN	EN	EX
67	ツルニンジン	キキョウ	<i>Codonopsis lanceolata</i> (Sieb. et Zucc.) Trautv.			EX
68	ヒメシオン	キク	<i>Aster fastigiatus</i> Fisch.		VU	EX
69	ヤマジノギク	キク	<i>Aster hispidus</i> Thunb.		CR	EX
70	コヤブタバコ	キク	<i>Carpesium cernuum</i> L.			EN
71	リュウノウギク	キク	<i>Dendranthema japonicum</i> (Makino) Kitam.			CR
72	アキノハハコグサ	キク	<i>Gnaphalium hypoleucum</i> DC.	EN	EN	EX
73	カセンソウ	キク	<i>Inula salicina</i> L. var. <i>asiatica</i> Kitam.		EN	EX
74	オナモミ	キク	<i>Xanthium strumarium</i> L.	VU	CR	EX
75	オトコエシ	スイカズラ	<i>Patrinia villosa</i> (Thunb.) Juss.			EX

絶滅危惧 I A 類 (CR)

No.	種名	科名	学名	国2014	県2015	市2010
1	ミズニラ	ミズニラ	<i>Isoetes japonica</i> A.Braun	NT	NT	CR
2	ツクシヤワラシダ	ヒメシダ	<i>Thelypteris hattorii</i> (H.Itô) Tagawa var. <i>nemoralis</i> (Ching) Sa.Kurata		VU	CR
3	カヤ	イチイ	<i>Torreya nucifera</i> (L.) Sieb. et Zucc.			CR
4	ジュンサイ	ジュンサイ	<i>Brasenia schreberi</i> J.F.Gmel.			NT
5	オニバス	スイレン	<i>Euryale ferox</i> Salisb.	VU	CR	EX
6	シデコブシ	モクレン	<i>Magnolia stellata</i> (Sieb. et Zucc.) Maxim.	NT	VU	EN
7	ヒメクロモジ	クスノキ	<i>Lindera lancea</i> (Momi.) H.Koyama			CR
8	ダンコウバイ	クスノキ	<i>Lindera obtusiloba</i> Blume			CR
9	スルガテンナンショウ	サトイモ	<i>Arisaema yamatense</i> (Nakai) Nakai subsp. <i>sugimotoi</i> (Nakai) H.Ohashi et J.Murata			VU
10	ヒナノシヤクジョウ	ヒナノシヤクジョウ	<i>Burmanna championii</i> Thwaites		VU	CR
11	ウバユリ	ユリ	<i>Cardiocrinum cordatum</i> (Thunb.) Makino			VU
12	カタクリ	ユリ	<i>Erythronium japonicum</i> Decne.			CR
13	ヤマユリ	ユリ	<i>Lilium auratum</i> Lindl.			CR
14	コオニユリ	ユリ	<i>Lilium leichtlinii</i> Hook.f. var. <i>maximowiczii</i> (Regel) Baker			CR
15	ギンラン	ラン	<i>Cephalanthera erecta</i> (Thunb.) Blume			EX
16	キンラン	ラン	<i>Cephalanthera falcata</i> (Thunb.) Blume	VU	NT	CR
17	シュスラン	ラン	<i>Goodyera velutina</i> Maxim.		VU	CR
18	オオミヤマウズラ	ラン	<i>Goodyera</i> sp.		EN	CR
19	キスゲ	ススキノキ	<i>Hemerocallis citrina</i> Baroni var. <i>vespertina</i> (H.Hara) M.Hotta			VU
20	ノカンゾウ	ススキノキ	<i>Hemerocallis fulva</i> L. var. <i>longituba</i> (Miq.) Maxim.			EN
21	ミクリ	ガマ	<i>Sparganium erectum</i> L.	NT	VU	EN
22	ケタガネソウ	カヤツリグサ	<i>Carex ciliato-marginata</i> Nakai			VU
23	ウマスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex idzuroei</i> Franch. et Sav.			CR
24	ニシノホンモンジスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex stenostachys</i> Franch. et Sav.		VU	EN
25	ヒメアオガヤツリ	カヤツリグサ	<i>Cyperus extremiorientalis</i> Ohwi		CR	EN
26	セイタカハライ	カヤツリグサ	<i>Eleocharis attenuata</i> (Franch. et Sav.) Palla		VU	CR
27	トネテンツキ	カヤツリグサ	<i>Fimbristylis stauntonii</i> Debeaux et Franch. var. <i>tonensis</i> (Makino) T.Koyama	VU	VU	
28	ヒメタイヌビエ	イネ	<i>Echinochloa crus-galli</i> (L.) P.Beauv. var. <i>formosensis</i> Ohwi		EN	
29	コウボウ	イネ	<i>Hierochloa odorata</i> (L.) P.Beauv. var. <i>pubescens</i> Krylov			VU
30	ヒメイカリソウ	メギ	<i>Epimedium youngianum</i> Fisch. et C.A.Mey.			CR
31	カザグルマ	キンボウゲ	<i>Clematis patens</i> C.Morren et Decne.	NT	EN	CR
32	スハマソウ	キンボウゲ	<i>Hepatica nobilis</i> Schreb. var. <i>japonica</i> Nakai form. <i>variegata</i> (Makino) Kitam.	NT	NT	CR
33	タチモ	アリノトウグサ	<i>Myriophyllum ussuriense</i> (Regel) Maxim.	NT	NT	EN
34	イヌハギ	マメ	<i>Lespedeza tomentosa</i> (Thunb.) Sieb. ex Maxim.	VU	VU	CR
35	ミヤコミズ	イラクサ	<i>Pilea kiotensis</i> Ohwi		CR	CR
36	ウメバチソウ	ニシキギ	<i>Parnassia palustris</i> L. var. <i>multisetata</i> Ledeb.			EN
37	ヒトツバハギ	ミカンソウ	<i>Securinega suffruticosa</i> (Pall.) Rehder var. <i>japonica</i> (Miq.) Hurus.			CR
38	ヒメミソハギ	ミソハギ	<i>Ammannia multiflora</i> Roxb.			EN
39	ヒメビシ	ミソハギ	<i>Trapa incisa</i> Sieb. et Zucc.	VU	EN	
40	イシモチソウ	モウセンゴケ	<i>Drosera peltata</i> Thunb. var. <i>nipponica</i> (Masam.) Ohwi	NT	EN	EN

41	コガクウツギ	アジサイ	<i>Hydrangea luteo-venosa</i> Koidz.	EN	CR
42	イワガラミ	アジサイ	<i>Schizophragma hydrangeoides</i> Sieb. et Zucc.		EN
43	コケリンドウ	リンドウ	<i>Gentiana squarrosa</i> Ledeb.	VU	CR
44	スズサイコ	キョウチクトウ	<i>Cynanchum paniculatum</i> (Bunge) Kitag.	NT	国リスト
45	シマジタムラソウ	シソ	<i>Salvia isensis</i> Nakai ex H.Hara	VU	NT
46	コシオガマ	ハマウツボ	<i>Phtheirospermum japonicum</i> (Thunb.) Kanitz		EN
47	ムラサキミミカキグサ	タヌキモ	<i>Utricularia uliginosa</i> Vahl	NT	NT
48	キキョウ	キキョウ	<i>Platycodon grandiflorum</i> (Jacq.) A.DC.	VU	VU
49	オミナエシ	スイカズラ	<i>Patrinia scabiosaefolia</i> Fisch.		EX

絶滅危惧 I B 類 (EN)

No.	種名	科名	学名	国2014	県2015	市2010
1	ヤマドリゼンマイ	ゼンマイ	<i>Osmunda cinnamomea</i> L.			EN
2	イシカグマ	コバノイシカグマ	<i>Microlepia strigosa</i> (Thunb.) C.Presl		NT	VU
3	コモチシダ	シシガシラ	<i>Woodwardia orientalis</i> Sw.			VU
4	オオバウマノスズクサ	ウマノスズクサ	<i>Aristolochia kaempferi</i> Willd.		VU	VU
5	シバナ	シバナ	<i>Triglochin maritimum</i> L.	NT	NT	EN
6	ヒルムシロ	ヒルムシロ	<i>Potamogeton distinctus</i> A.Benn.		NT	EN
7	ササユリ	ユリ	<i>Lilium japonicum</i> Thunb.			EN
8	サイハイラン	ラン	<i>Cremastra appendiculata</i> (D.Don) Makino			VU
9	カキラン	ラン	<i>Epipactis thunbergii</i> A.Gray			VU
10	クロヤツシロラン	ラン	<i>Gastrodia pubilabiata</i> Y.Sawa			VU
11	ミヤマウズラ	ラン	<i>Goodyera schlechtendaliana</i> Rchb.f.			VU
12	ムヨウラン	ラン	<i>Lecanorchis japonica</i> Blume			EN
13	コバノトンボソウ	ラン	<i>Platanthera tipuloides</i> (L.f.) Lindl. var. <i>nipponica</i> (Makino) Ohwi			EN
14	ノハナショウブ	アヤメ	<i>Iris ensata</i> Thunb. var. <i>spontanea</i> (Makino) Nakai			EN
15	ミヤマナルコユリ	キジカクシ	<i>Polygonatum lasianthum</i> Maxim.			EN
16	ヤマトミクリ	ガマ	<i>Sparganium fallax</i> Graebn.	NT	NT	EN
17	ツクシクロイヌノヒゲ	ホシクサ	<i>Eriocaulon kiusianum</i> Maxim.	VU	NT	EN
18	シラタマホシクサ	ホシクサ	<i>Eriocaulon nudicuspe</i> Maxim.	VU	VU	VU
19	イセウキヤガラ	カヤツリグサ	<i>Bolboschoenus planiculmis</i> (F.Schmidt) T.V.Egorova			VU
20	ミノボロスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex albata</i> Boott		VU	
21	ハマアオスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex fibrillosa</i> Franch. et Sav.			CR
22	センダイスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex lenta</i> D.Don var. <i>sendaica</i> (Franch.) T.Koyama		VU	EN
23	アズマナルコ	カヤツリグサ	<i>Carex shimidzensis</i> Franch.			EN
24	ヒメガヤツリ	カヤツリグサ	<i>Cyperus tenuispica</i> Steud.		VU	EN
25	イガクサ	カヤツリグサ	<i>Rhynchospora rubra</i> (Lour.) Makino			EN
26	マツカサススキ	カヤツリグサ	<i>Scirpus mitsukurianus</i> Makino			EN
27	ウンヌケ	イネ	<i>Eulalia speciosa</i> (Debeaux) Kuntze	VU	NT	VU
28	ホザキノフサモ	アリノトウグサ	<i>Myriophyllum spicatum</i> L.			VU
29	ヤブサンザシ	スグリ	<i>Ribes fasciculatum</i> Sieb. et Zucc.		VU	EN
30	キハギ	マメ	<i>Lespedeza buergeri</i> Miq.			EX
31	シベリアアメドハギ	マメ	<i>Lespedeza juncea</i> (L.f.) Pers.			EN
32	マキエハギ	マメ	<i>Lespedeza virgata</i> (Thunb.) DC.			NT
33	ヒナノカンザシ	ヒメハギ	<i>Salomonina oblongifolia</i> DC.			VU
34	カワラサイコ	バラ	<i>Potentilla chinensis</i> Ser.		VU	EN
35	マメナシ	バラ	<i>Pyrus calleryana</i> Decne.	EN	CR	EN
36	ヤマネコヤナギ	ヤナギ	<i>Salix bakko</i> Kimura			EN
37	コクサギ	ミカン	<i>Orixa japonica</i> Thunb.			EN
38	ニガキ	ニガキ	<i>Picrasma quassioides</i> (D.Don) Benn.			VU
39	ミズタガラシ	アブラナ	<i>Cardamine lyrata</i> Bunge		NT	EN
40	ハタザオ	アブラナ	<i>Turritis glabra</i> L.			VU
41	クサレダマ	サクラソウ	<i>Lysimachia vulgaris</i> L. var. <i>davurica</i> (Ledeb.) R.Knuth			NT
42	キクムグラ	アカネ	<i>Galium kikumugura</i> Ohwi		NT	EN
43	リンドウ	リンドウ	<i>Gentiana scabra</i> Bunge var. <i>buergeri</i> (Miq.) Maxim.			EN
44	イヌセンブリ	リンドウ	<i>Swertia diluta</i> (Turcz.) Benth. et Hook.f. var. <i>tosaensis</i> (Makino) H.Hara	VU	NT	VU
45	マルバノホロシ	ナス	<i>Solanum maximowiczii</i> Koidz.			EN
46	オオアブノメ	オオバコ	<i>Gratiola japonica</i> Miq.	VU	VU	VU
47	ヤマハッカ	シソ	<i>Isodon inflexus</i> (Thunb.) Kudô			VU
48	オドリコソウ	シソ	<i>Lamium album</i> L. var. <i>barbatum</i> (Sieb. et Zucc.) Franch. et Sav.			VU
49	オカタツナミソウ	シソ	<i>Scutellaria brachyspica</i> Nakai et H.Hara			EN
50	イガタツナミ	シソ	<i>Scutellaria kurokawae</i> H.Hara			VU
51	ニガクサ	シソ	<i>Teucrium japonicum</i> Hoult.			VU
52	ヌマダイコン	キク	<i>Adenostemma lavenia</i> (L.) Kuntze			VU
53	イナカギク	キク	<i>Aster ageratoides</i> Turcz. subsp. <i>amplexifolius</i> (Sieb. et Zucc.) Kitam.			EN

54	ウラギク	キク	<i>Aster tripolium</i> L.	NT	国リスト	VU
55	オケラ	キク	<i>Atractylodes japonica</i> Koidz. ex Kitam.			VU
56	ミズギク	キク	<i>Inula ciliaris</i> (Miq.) Maxim.		NT	EN
57	カシワバハグマ	キク	<i>Pertya robusta</i> (Maxim.) Makino			EN
58	タニウツギ	スイカズラ	<i>Weigela hortensis</i> (Sieb. et Zucc.) K.Koch			EX

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

No.	種名	科名	学名	国2014	県2015	市2010
1	ウチワゴケ	コケシノブ	<i>Crepidomanes minutum</i> (Blume) K.Iwats.			VU
2	チャセンシダ	チャセンシダ	<i>Asplenium trichomanes</i> L.			VU
3	ウスヒメワラビ	イワデンダ	<i>Acystopteris japonica</i> (Lueres.) Nakai			EN
4	ヘラシダ	イワデンダ	<i>Deparia lancea</i> (Thunb.) Fraser-Jenk.			
5	ウスバシケシダ	イワデンダ	<i>Deparia</i> sp.	VU	VU	VU
6	タニヘゴ	オシダ	<i>Dryopteris tokyoensis</i> (Matsum. ex Makino) C.Chr.			NT
7	ヘラオモダカ	オモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i> A.Braun et C.D.Bouché			VU
8	アギナシ	オモダカ	<i>Sagittaria aginashi</i> Makino	NT	国リスト	NT
9	オオトリゲモ	トチカガミ	<i>Najas oguraensis</i> Miki		NT	VU
10	ヒメドコロ	ヤマノイモ	<i>Dioscorea tenuipes</i> Franch. et Sav.			VU
11	チゴユリ	イヌサフラン	<i>Disporum smilacinum</i> A.Gray			VU
12	アマナ	ユリ	<i>Amana edulis</i> (Miq.) Honda			VU
13	サギソウ	ラン	<i>Habenaria radiata</i> (Thunb.) Spreng.	NT	VU	VU
14	ジガバチソウ	ラン	<i>Liparis krameri</i> Franch. et Sav.			VU
15	クモキリソウ	ラン	<i>Liparis kumokiri</i> F.Maek.			VU
16	キヨスミギボウシ	キジカクシ	<i>Hosta kiyosumiensis</i> F.Maek.			VU
17	コバギボウシ	キジカクシ	<i>Hosta sieboldii</i> (Paxton) J.W.Ingram form. <i>spathulata</i> (Miq.) W.G.Schmid			VU
18	ナガエミクリ	ガマ	<i>Sparganium japonicum</i> Rothert	NT	国リスト	VU
19	ビロードスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex fedia</i> Nees var. <i>miyabei</i> (Franch.) T.Koyama			VU
20	ツクバスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex hirtifructus</i> Kük.			VU
21	イソヤマテンツキ	カヤツリグサ	<i>Fimbristylis ferruginea</i> (L.) Vahl var. <i>sieboldii</i> (Miq.) Ohwi			VU
22	アズマガヤ	イネ	<i>Asperella longe-aristata</i> (Hack.) Ohwi			VU
23	ヌマカゼクサ	イネ	<i>Eragrostis aquatica</i> Honda			VU
24	サヤヌカグサ	イネ	<i>Leersia sayanuka</i> Ohwi			
25	ワセオバナ	イネ	<i>Saccharum spontaneum</i> L. var. <i>arenicola</i> (Ohwi) Ohwi			VU
26	シダミコザサ	イネ	<i>Sasa samaniana</i> Nakai var. <i>yoshinoi</i> (Koidz.) S.Suzuki form. <i>hidejiroana</i> (Koidz.) S.Suzuki		VU	VU
27	ヘビノボラズ	メギ	<i>Berberis sieboldii</i> Miq.		NT	NT
28	ウマノアシガタ	キンボウゲ	<i>Ranunculus japonicus</i> Thunb.			VU
29	ツメレンゲ	ベンケイソウ	<i>Orostachys japonicus</i> (Maxim.) A.Berger	NT	NT	VU
30	ホドイモ	マメ	<i>Apios fortunei</i> Maxim.			VU
31	カワラケツメイ	マメ	<i>Cassia nomame</i> (Makino) Honda			NT
32	タヌキマメ	マメ	<i>Crotalaria sessiliflora</i> L.			VU
33	ハマエンドウ	マメ	<i>Lathyrus japonicus</i> Willd.			VU
34	オオウラジロノキ	バラ	<i>Malus tschonoskii</i> (Maxim.) C.K.Schneid.			VU
35	フモトミズナラ	ブナ	<i>Quercus crispula</i> Blume var. <i>mongolicoides</i> (H.Ohba) Seriz.		NT	VU
36	ウラジロガシ	ブナ	<i>Quercus salicina</i> Blume			VU
37	カワラハンノキ	カバノキ	<i>Alnus serrulata</i> Callier			VU
38	ゴキヅル	ウリ	<i>Actinostemma lobatum</i> (Maxim.) Maxim. ex Franch. et Sav.			
39	キヌヤナギ	ヤナギ	<i>Salix kinuyanagi</i> Kimura		NT	VU
40	アギスミレ	スミレ	<i>Viola verucunda</i> A.Gray var. <i>semilunaris</i> Maxim.			VU
41	サワオトギリ	オトギリソウ	<i>Hypericum pseudopetiolatum</i> R.Keller			VU
42	ウスゲチヨウジタデ	アカバナ	<i>Ludwigia greatrexii</i> H.Hara	NT	国リスト	VU
43	ガンピ	ジンチョウゲ	<i>Diplomorpha sikokiana</i> (Franch. et Sav.) Honda			VU
44	コイヌガラシ	アブラナ	<i>Rorippa cantoniensis</i> (Lour.) Ohwi	NT	国リスト	VU
45	ナガバノウナギツカミ	タデ	<i>Persicaria hastatosagittata</i> (Makino) Nakai	NT	NT	EN
46	ウナギツカミ	タデ	<i>Persicaria sieboldii</i> (Meisn.) Ohki var. <i>aestiva</i> (Ohki) Okuyama			VU
47	アキノミチヤナギ	タデ	<i>Polygonum polyneuron</i> Franch. et Sav.			VU
48	コギシギシ	タデ	<i>Rumex nipponicus</i> Franch. et Sav.	VU	国リスト	VU
49	ヤナギイノコヅチ	ヒユ	<i>Achyranthes longifolia</i> (Makino) Makino			
50	マタタビ	マタタビ	<i>Actinidia polygama</i> (Sieb. et Zucc.) Planch.ex Maxim.			VU
51	ギンリョウソウモドキ	ツツジ	<i>Monotropa uniflora</i> L.			VU
52	イチヤクソウ	ツツジ	<i>Pyrola japonica</i> Klenze			NT
53	ホソバニセジュズネノキ	アカネ	<i>Damnacanthus indicus</i> C.F.Gaertn. subsp. <i>major</i> (Sieb. et Zucc.) T.Yamaz. var. <i>lanceifolius</i> Makino			VU
54	ホソバノヨツバムグラ	アカネ	<i>Galium trifidum</i> L. var. <i>brevipedunculatum</i> Regel			VU

55	ヤブムラサキ	シソ	<i>Callicarpa mollis</i> Sieb. et Zucc.			EN
56	ハッカ	シソ	<i>Mentha arvensis</i> L. var. <i>piperascens</i> Malinv.			NT
57	ミゾコウジュ	シソ	<i>Salvia plebeia</i> R.Br.	NT	国リスト	NT
58	タツナミソウ	シソ	<i>Scutellaria indica</i> L.			VU
59	シソバタツナミ	シソ	<i>Scutellaria laeteviolacea</i> Koidz.			VU
60	タマミズキ	モチノキ	<i>Ilex micrococca</i> Maxim.			VU
61	サワギキョウ	キキョウ	<i>Lobelia sessilifolia</i> Lamb.			VU
62	タニギキョウ	キキョウ	<i>Peracarpa carnosa</i> (Wall.) Hook.f. et Thomson var. <i>circaeoides</i> (F.Schmidt) Makino			VU
63	ガガブタ	ミツガシワ	<i>Nymphoides indica</i> (L.) Kuntze	NT	NT	VU
64	オクモミジハグマ	キク	<i>Ainsliaea acerifolia</i> Sch.Bip. var. <i>subapoda</i> Nakai			VU
65	キッコウハグマ	キク	<i>Ainsliaea apiculata</i> Sch.Bip.			VU
66	カワラハハコ	キク	<i>Anaphalis margaritacea</i> (L.) Benth. et Hook.f. subsp. <i>yedoensis</i> (Franch. et Sav.) Kitam.			VU
67	ムラサキトキンソウ	キク	<i>Centipeda</i> sp.		NT	
68	オグルマ	キク	<i>Inula britannica</i> L. subsp. <i>japonica</i> (Thunb.) Kitam.			VU
69	ムラサキニガナ	キク	<i>Lactuca sororia</i> Miq.			VU
70	オオカメノキ	レンブクソウ	<i>Viburnum furcatum</i> Blume ex Maxim.			VU
71	ノダケ	セリ	<i>Angelica decursiva</i> (Miq.) Franch. et Sav.			VU
72	ムカゴニンジン	セリ	<i>Sium ninsi</i> L.			VU

準絶滅危惧 (NT)

No.	種名	科名	学名	国2014	県2015	市2010
1	コハナヤスリ	ハナヤスリ	<i>Ophioglossum thermale</i> Kom. var. <i>nipponicum</i> (Miyabe et Kudô) M.Nishida			NT
2	オオハナワラビ	ハナヤスリ	<i>Sceptridium japonicum</i> (Prantl) Lyon			NT
3	トキワトランオ	チャセンシダ	<i>Asplenium pekinense</i> Hance			NT
4	スズカカンアオイ	ウマノスズクサ	<i>Heterotropa nipponica</i> (F.Maek.) F.Maek. var. <i>brachypodion</i> (F.Maek.) F.Maek.			NT
5	カゴノキ	クスノキ	<i>Litsea coreana</i> H.Lév.			NT
6	シロダモ	クスノキ	<i>Neolitsea sericea</i> (Blume) Koidz.			NT
7	ウラシマソウ	サトイモ	<i>Arisaema urashima</i> H.Hara			NT
8	イトトリゲモ	トチカガミ	<i>Najas gracillima</i> (A.Braun ex Engelm.) Magnus	NT	国リスト	NT
9	ヤマラッキョウ	ヒガンバナ	<i>Allium thunbergii</i> G.Don			NT
10	ヒメコウガイゼキショウ	イグサ	<i>Juncus bufonius</i> L.			VU
11	シヨウジョウスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex blepharicarpa</i> Franch.			NT
12	シオクグ	カヤツリグサ	<i>Carex scabrifolia</i> Steud.			NT
13	ヒメコヌカグサ	イネ	<i>Agrostis valvata</i> Steud.	NT	国リスト	NT
14	アシカキ	イネ	<i>Leercia japonica</i> Makino			
15	スズメノコビエ	イネ	<i>Paspalum scrobiculatum</i> L. var. <i>orbiculatre</i> (G.Forst.) Hack.			
16	ウキシバ	イネ	<i>Pseudoraphis ukishiba</i> Ohwi		NT	VU
17	マンサク	マンサク	<i>Hamamelis japonica</i> Sieb. et Zucc.			NT
18	ワタゲカマツカ	バラ	<i>Pourthiaea villosa</i> (Thunb.) Decne.			NT
19	コアカソ	イラクサ	<i>Boehmeria spicata</i> (Thunb.) Thunb.			
20	サクラバハハンノキ	カバノキ	<i>Alnus trabeculosa</i> Hand.-Mazz.	NT	国リスト	NT
21	ケイリュウタチツボスミレ	スミレ	<i>Viola grypoceras</i> A.Gray var. <i>ripensis</i> N.Yamada et M.Okamoto			NT
22	ミズユキノシタ	アカバナ	<i>Ludwigia ovalis</i> Miq.			NT
23	サクラタデ	タデ	<i>Persicaria conspicua</i> (Nakai) Nakai			VU
24	モウセンゴケ	モウセンゴケ	<i>Drosera rotundifolia</i> L.			NT
25	カワラナデシコ	ナデシコ	<i>Dianthus superbus</i> L. var. <i>longicalycinus</i> (Maxim.) F.N.Williams			NT
26	ホソバハマアカザ	ヒユ	<i>Atriplex gmelinii</i> C.A.Mey			NT
27	コアジサイ	アジサイ	<i>Hydrangea hirta</i> (Thunb.) Sieb. et Zucc.			NT
28	クロミノニシゴリ	ハイノキ	<i>Symplocos paniculata</i> (Thunb.) Miq.			NT
29	ネナシカズラ	ヒルガオ	<i>Cuscuta japonica</i> Choisy			NT
30	イヌノフグリ	オオバコ	<i>Veronica didyma</i> Ten. var. <i>lilacina</i> (H.Hara) T.Yamaz.	VU	国リスト	VU
31	イヌゴマ	シソ	<i>Stachys riederi</i> Cham. var. <i>intermedia</i> (Kudô) Kitam.			NT
32	ナンバンギセル	ハマウツボ	<i>Aeginetia indica</i> L.			NT
33	イヌタヌキモ	タヌキモ	<i>Utricularia australis</i> R.Br.	NT	国リスト	NT
34	ミミカキグサ	タヌキモ	<i>Utricularia bifida</i> L.			NT
35	ホザキノミミカキグサ	タヌキモ	<i>Utricularia racemosa</i> Wall.			NT
36	カワラニンジン	キク	<i>Artemisia apiacea</i> Hance			NT
37	キセルアザミ	キク	<i>Cirsium sieboldii</i> Miq.			NT
38	オカウコギ	ウコギ	<i>Acanthopanax japonicus</i> Franch. et Sav.			

国リスト・県リスト

No.	種 名	科 名	学 名	国2014	県2015	市2010
1	マツバラシ	マツバラシ	<i>Psilotum nudum</i> (L.) P.Beauv.	NT	VU	
2	ニッケイ	クスノキ	<i>Cinnamomum okinawense</i> Hatus.	NT	国リスト	国リスト
3	ミズオオバコ	トチカガミ	<i>Ottelia alismoides</i> (L.) Pers.	VU	国リスト	
4	シラン	ラン	<i>Bletilla striata</i> (Thunb.) Rehb.f.	NT	NT	国リスト
5	オグラノフサモ	アリノトウグサ	<i>Myriophyllum oguraense</i> Miki	VU	CR	VU
6	ナラガシワ	ブナ	<i>Quercus aliena</i> Blume		EN	
7	ヤチヤナギ	ヤマモモ	<i>Gale belgica</i> Duham. var. <i>tomentosa</i> (C.DC.) T.Yamaz.		CR	
8	ミズマツバ	ミソハギ	<i>Rotala mexicana</i> Cham. et Schltdl.	VU	国リスト	国リスト
9	カワヂシャ	オオバコ	<i>Veronica undulata</i> Wall.	NT	国リスト	国リスト
10	アサザ	ミツガシワ	<i>Nymphoides peltata</i> (S.G.Gmel.) Kuntze	NT	EN	
11	ハクサンボク	レンブクソウ	<i>Viburnum japonicum</i> (Thunb.) Spreng.		VU	

② 名古屋市版レッドリスト（コケ植物）

科の範囲、名称、配列については「日本の野生植物 コケ」（岩月善之助著，2001 年，平凡社）に準拠した。科内の配列については、学名のアルファベット順とした。

絶滅（EX）

No.	区 分	種 名	科 名	学 名	国2014	県2015
1	苔類	タカサゴソコマメゴケ	タカサゴソコマメゴケ	<i>Jackiella javanica</i> Schiffn.		EX

絶滅危惧ⅠA類（CR）

No.	区 分	種 名	科 名	学 名	国2014	県2015
（該当種なし）						

絶滅危惧ⅠB類（EN）

No.	区 分	種 名	科 名	学 名	国2014	県2015
（該当種なし）						

絶滅危惧Ⅱ類（VU）

No.	区 分	種 名	科 名	学 名	国2014	県2015
1	蘚類	ハリミズゴケ	ミズゴケ	<i>Sphagnum cuspidatum</i> Ehrh. ex Hofm.		VU
2	蘚類	イバラゴケ （ケムシゴケ）	アブラゴケ	<i>Calypstrochaeta japonica</i> (Card. et Thér.) Z.Iwats. et Nog.		VU
3	苔類	マルバヒメクサリゴケ	クサリゴケ	<i>Cololejeunea minutissima</i> (Sm.) Schiffn.		VU

準絶滅危惧（NT）

No.	区 分	種 名	科 名	学 名	国2014	県2015
1	蘚類	コアナミズゴケ	ミズゴケ	<i>Sphagnum microporum</i> Warnst. ex Card.		
2	蘚類	オオミズゴケ	ミズゴケ	<i>Sphagnum palustre</i> L.	NT	NT
3	蘚類	イボミズゴケ	ミズゴケ	<i>Sphagnum papillosum</i> Lindb.		NT
4	蘚類	ユガミミズゴケ	ミズゴケ	<i>Sphagnum subsecundum</i> Nees ex Sturm		
5	蘚類	イクビゴケ	イクビゴケ	<i>Diphyscium fulvifolium</i> Mitt.		
6	蘚類	ハミズゴケ	スギゴケ	<i>Pogonatum spinulosum</i> Mitt.		
7	蘚類	ウマスギゴケ	スギゴケ	<i>Polytrichum commune</i> Hedw.		
8	蘚類	ツリバリゴケモドキ	シッポゴケ	<i>Bryohumbertia subcomosa</i> (Dix.) Frahm		
9	蘚類	イクタマユハケゴケ	シッポゴケ	<i>Campylopus gemmiparus</i> Z.Iwats. et al.		
10	蘚類	シッポゴケ	シッポゴケ	<i>Dicranum japonicum</i> Mitt.		
11	蘚類	カモジゴケ	シッポゴケ	<i>Dicranum scoparium</i> Hedw.		
12	蘚類	ヤナギゴケ	ヤナギゴケ	<i>Leptodictyum riparium</i> (Hedw.) Warnst.		
13	苔類	ゼニゴケ	ゼニゴケ	<i>Marchantia polymorpha</i> L.		
14	苔類	ウキゴケ	ウキゴケ	<i>Riccia fluitans</i> L.		VU
15	苔類	イチョウウキゴケ	ウキゴケ	<i>Ricciocarpos natans</i> (L.) Corda	NT	NT

情報不足（DD）

No.	区 分	種 名	科 名	学 名	国2014	県2015
（該当種なし）						

市 2010 版ではコケ植物は調査対象外となっているため、市 2010 ランクを掲載していない。

